

第10回 定時社員総会資料

一般社団法人日本医療薬学会

日時：平成30年3月25日（日） 15時30分～16時30分
場所：金沢商工会議所会館

第10回 定時社員総会 次第

1. 会頭挨拶

2. 成立確認

3. 議事録署名人の指名

4. 協議事項

第一号議案 平成29年度事業報告(案) 1ページ

第二号議案 平成29年度決算報告(案) 23ページ

第三号議案 平成29年度監査報告 31ページ

第四号議案 平成30、31年度役員選任(案) 33ページ

協議事項 第一号議案

平成 29 年度 事業報告 (案)

自 平成 29 年 1 月 1 日
至 平成 29 年 12 月 31 日

平成 29 年度事業報告(案)

平成 29 年度は、3 月 24 日に開催した第 9 回定時社員総会を経て、新規就任者 80 名を含む 275 名が代議員に就任した。会員数は 12,332 名(団体を含む)、うち正会員は 12,090 名であり、初めて 12,000 人を超えた。

平成 29 年度の実業は、就任 4 年目を迎えた佐々木均会頭の下、29 年度事業計画及び予算に基づき、新規事業の拡充と既存事業の進展を図った。特に、当年度は学術活動の推進・向上に努め、新規事業として 4 月に臨床研究の実施から学会発表及び論文の執筆・投稿の促進を目的とした医療薬学教育セミナーを開催した。6 月には薬学生や若手薬剤師が学会発表を行う契機となるフレッシューズ・カンファレンスを開催した。また、10 月には医療薬学学術小委員会を編成する形で医療薬学研究活動を支援することを目的として研究課題を公募し、2 つの研究テーマを採択した。

第 27 回目となる年会は、大森栄氏(信州大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)を年会長として 11 月 3 日から 5 日までの 3 日間にわたり、幕張メッセをメイン会場として開催した。一般参加者数は、従前の年会を上回り最大規模の年会となった。

10 月に実施した平成 30・31 年度役員候補者選挙により、14 名の理事候補と 3 名の監事候補が選出された。第 10 回定時社員総会(平成 30 年 3 月 25 日開催)において、推薦理事候補を含めた全 23 名の新役員の選任決議が行われ、承認された際には 2 年間にわたって役員に就任する。

平成 29 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

〔1〕事業の部

1. 会員数(平成 29 年 12 月 31 日現在)

正会員：12,090 名、 学生会員：199 名、 賛助会員：17 社・団体
購読者：26 件、 名誉会員：23 名

2. 認定薬剤師制度の認定数 (平成 30 年 1 月 1 日現在)

認定薬剤師：1,527 名
指導薬剤師：812 名
研修施設：264 施設

3. がん専門薬剤師制度の認定数 (平成 30 年 1 月 1 日現在)

がん専門薬剤師：579 名
がん指導薬剤師：238 名
がん専門薬剤師研修施設：260 施設

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数 (平成 30 年 1 月 1 日現在)

薬物療法専門薬剤師：40 名
薬物療法指導薬剤師：23 名
薬物療法専門薬剤師研修施設：189 施設

5. 会議・委員会開催状況

社員総会 2 回（定時・臨時 各 1 回）、定例理事会 6 回、理事会事前打合せ 5 回、財務委員会 6 回（予算会議 1 回、会計点検 2 回、決算準備 2 回、和田会計顧問との打合せ 1 回）、監事監査 1 回、総務委員会 1 回、広報委員会 1 回、国際交流委員会 2 回、出版委員会 1 回、医療薬学編集委員会 1 回、医療薬学教育委員会 3 回、認定薬剤師認定制度委員会 2 回、がん専門薬剤師認定制度委員会 2 回、がん専門薬剤師研修小委員会 2 回、がん専門薬剤師試験小委員会 3 回、がん専門薬剤師全体会議運営会議 4 回、専門薬剤師育成委員会 1 回、専門薬剤師育成委員会・保険薬局 WG2 回、専門薬剤師育成委員会・大学教員 WG1 回、薬物療法専門薬剤師認定制度委員会 3 回、薬物療法専門薬剤師研修小委員会 1 回、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験実行小委員会 6 回、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師試験問題作成小委員会 1 回、功績賞選考委員会 1 回、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会 2 回、論文賞選考委員会 1 回、役員候補者選挙管理委員会 1 回、平成 29・30 年度推薦代議員候補者選考委員会 1 回、人事委員会 2 回、医療薬学学術委員会 3 回、医療薬学学術小委員会 2 回、フレッシュャーズ・カンファランス企画小委員会 3 回、フレッシュャーズ・カンファランス実行委員会 1 回、公益社団法人化検討特別委員会 1 回、保険薬局薬剤師の認定制度に係る協議 1 回、年会長候補者推薦委員会 1 回、第 27 回年会組織委員会 1 回、第 27 回年会に係る学会事務局とコンベンション会社の打合せ 1 回、学会発表に係る研究倫理への適用及び個人情報取扱いに関する検討 WG1 回、各認定薬剤師制度の整合化等に係る検討会議 1 回

6. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

- 1) 平成 30・31 年度役員候補者選挙に関わる管理委員会を編成した。
- 2) 平成 30 年度事業計画の草案を検討した。
- 3) 第 32 回（2022 年度）年会長候補者を推薦した。
- 4) 本学会プライバシーポリシーを策定した。
- 5) 事務局職員の人事管理・労務等を調査した。

(2) 財務委員会

- 1) 平成 28 年度決算報告
 - ① 監事監査（平成 29 年 2 月 23 日）
 - ② 理事会報告（平成 29 年 3 月 2 日）
 - ③ 第 9 回定時社員総会 協議・承認（平成 29 年 3 月 24 日）
- 2) 平成 30 年度予算策定
 - ① 予算委員会（平成 29 年 8 月 10 日）
 - ② 理事会審議（平成 29 年 8 月 28 日）
 - ③ 第 9 回臨時社員総会 協議・承認（平成 29 年 11 月 4 日）
- 3) 会計点検
 - ① 財務委員長による点検を実施した。（平成 29 年 5 月 11 日、12 月 27 日）

(3) 広報委員会

- 1) 学会パンフレットの改訂
学生や若手薬剤師の新規入会促進への活用を目的とした学会紹介パンフレットの 2018

年度版を作成し、全国の薬学部をはじめ関連機関へ配布した。

2) 学会ホームページのリニューアル

トップページのデザインや機能性に注視しながら基本的な改訂の方向性を決定した。内部構成の見直しや重複ページの削除等を図った。現在、業者へ作業依頼をしている。

3) 学会ホームページ「英語版」の作成

海外への情報発信に適う学会紹介や活動内容等を日本語版のホームページから選定して英文に翻訳した。現在、業者へ作成依頼をしている。

(4) 企画・シンポジウム委員会

1) 医療薬学公開シンポジウムの開催（第 65 回から第 68 回まで 4 回開催）

① 第 65 回 北海道、田崎嘉一氏（旭川医科大学病院薬剤部 教授）

9月3日、大雪クリスタルホール国際会議場において、テーマ「地域包括ケア時代の病診薬連携」を開催した。

② 第 66 回 鳥取県、島田美樹氏（鳥取大学医学部附属病院薬剤部 教授）

9月9日、米子コンベンションセンター小ホールにおいて、テーマ「再考～医療安全と薬剤師の役割」を開催した。

③ 第 67 回 沖縄県、中村克徳氏（琉球大学医学部附属病院薬剤部 教授）

11月18日、ほしぞら公民館ホールにおいて、テーマ「専門薬剤師のアウトカム（検証、業務への活用・繋げ方）」を開催した。

④ 第 68 回 高知県、宮村充彦氏（高知大学医学部附属病院薬剤部 教授）

11月19日、高知大学医学部附属病院臨床講義棟第3講義室において、テーマ「医療情報のIT化と地域医療連携の推進」を開催した。

2) 小委員会の活動

薬学生、若手薬剤師及び大学教員を主体とした「フレッシュャーズ・カンファランス」の企画運営を主導するため、本委員会内にフレッシュャーズ・カンファランス企画小委員会を設置し、第1回目の同カンファランスを下記の通り開催した。

① 第1回フレッシュャーズ・カンファランスの開催

・実行委員長：大谷壽一（慶應義塾大学薬学部 教授）

・日程：平成29年6月25日（日） 13時～17時

・会場：慶應義塾大学芝共立キャンパス

・参加者：181名

・演題数：61演題（口頭26演題、ポスター35演題）

② 第2回フレッシュャーズ・カンファランスの開催計画

・実行委員長：桂敏也（立命館大学薬学部 教授）

・日程：平成30年7月8日（日） 13時～17時

・会場：京都薬科大学

3) 年會に係るシンポジウムへの演題と登録

本学会の各委員会が企画する第27回年會のシンポジウム等の演題登録に際して、当委員会が窓口となって各委員会への登録を募った。取り纏めた結果を理事会で協議し、第27回年會（千葉、幕張メッセ）への組み入れを提言した。

(5) 会員委員会

- 1) 会費納入の利便性の向上を目的に、新たにコンビニ納入を導入した。また、年会会場におけるクレジット払い用端末の導入を検討した。
- 2) 会費の遡及納入に係る嘆願書及び休会届を受け付け、理事会における審議事項として説明した。
- 3) 平成 30 年度分会費の納入依頼を、学会ホームページ及び医療薬学第 43 巻 11、12 両号にて周知する共に、会員にメールを配信して納入依頼に努めた。

(6) 医療薬学編集委員会

- 1) 「医療薬学」第 43 巻 1 号～12 号を編集・発行した。
 - ① 平成 29 年 1 月から 12 月までに 125 編（非学会員から 11 編）の論文投稿を受け、同期間に 85 編を採択した。（採択率：68.0%）
 - ② 第 43 巻 1 号～12 号に 84 編の論文を掲載した。
内訳：総説 2 編、一般論文 27 編、ノート 55 編（うち英文論文は 6 編）
- 2) その他の寄稿区分として、専門薬剤師リレーエッセイ 12 編を掲載した。
- 3) 投稿論文数の増加を目指して対策を検討した。

(7) JPHCS 編集委員会

- 1) 英文誌 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS) の第 3 巻(2017 年)の編集・発行した。
 - ① 2017 年 1 月から 12 月までに 65 編の論文投稿を受け付けた。
内訳：Research article 60 編、Case report 1 編、Review 1 編、Short report 3 編
 - ② 第 3 巻(2017 年)に 26 編の論文を掲載した。
内訳：Research article 25 編、Case report 1 編（採択率は 40%）
- 2) BMC による Journal Audit を受け、大きな問題がないとを確認した。また、提示されたコメントや推奨について委員会で対応した。
- 3) BMC のブランディング戦略更新に際し、本誌のウェブサイトの本学会のロゴマークで用いている Midnight Yellow を採用したデザインに変更した。

(8) 認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。
 - ① 認定薬剤師の受験資格の審査、認定試験の概要及び認定者数
申請者数 139 名、受験者数 136 名、認定者数 117 名（合格率 84.2%）
平成 29 年 7 月 30 日（日）に認定試験を実施した。
 - ② 指導薬剤師委嘱審査及び委嘱者数
申請者数 51 名、委嘱者数 42 名
（うち、認定薬剤師の認定と指導薬剤師の委嘱を同時に受けた者の数 9 名）
 - ③ 研修施設の認定施設数（2 期に分けて申請受付）
申請施設数 24 施設、認定施設数 24 施設（1 期 13 施設、2 期 11 施設）、
 - ④ 認定薬剤師更新者数
申請者数 320 名、更新者数 320 名
 - ⑤ 研修施設更新数

更新対象施設数 59 施設、更新施設数 40 施設

2) 小委員会の活動

- ① 平成 28 年 12 月から薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験問題作成小委員会の委員を増員し、試験問題の作成に取り組んだ。
- ② 平成 29 年 4 月から薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験実行小委員会で問題を精査し、平成 29 年 7 月 30 日（日）に薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験を実施した。

(9) がん専門薬剤師認定制度委員会

1) がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

- ① がん専門薬剤師・新規認定 56 名、更新認定 39 名、更新保留 7 名
- ② がん指導薬剤師・新規認定 15 名、更新認定 4 名、
- ③ がん専門薬剤師研修施設・新規認定 20 施設、更新認定 9 施設

2) 教育啓発活動として、集中教育講座、アドバンスト研修会、症例サマリー書き方講座、がん専門薬剤師全体会議、年会におけるシンポジウムを実施した。

3) がん専門薬剤師・同指導薬剤師の英語名称

がん専門薬剤師及び同指導薬剤師の英語名称を、薬物療法専門薬剤師制度との整合化を図り改称した。

4) 小委員会の活動

① がん専門薬剤師試験小委員会

がん専門薬剤師認定試験問題を作成し、平成 29 年 11 月 25 日（土）に認定試験を実施した。受験者数 68 名中 56 名（82.4%）を合格とした。

② がん専門薬剤師研修小委員会

次の講習会、研修会等を開催した。

- ・がん専門薬剤師集中教育講座（日本病院薬剤師会との共催により 4 回開催）

東京都 平成 29 年 2 月 11 日、12 日、平成 29 年 4 月 15 日、16 日

京都市 平成 29 年 7 月 22 日、23 日、福岡市 平成 29 年 12 月 2 日、3 日

- ・第 5 回がん専門薬剤師全体会議（大阪市、平成 29 年 5 月 13 日）

- ・第 5 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会（福岡市、平成 29 年 11 月 19 日）

他学会が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。

③ 抗がん薬プロフィール小委員会

抗がん薬のリスク因子プロフィールの作成を開始した。本小委員会が作成した資料は、日本癌治療学会ホームページ内の「がん診療ガイドライン」に掲載をする予定である。

(10) 薬物療法専門薬剤師認定制度委員会

1) 薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師、薬物療法専門薬剤師研修施設の各認定者・施設数は次のとおり。

- ① 薬物療法専門薬剤師・新規認定 10 名（うち 2 名は認定薬剤師と同時認定）、更新認定 7 名、更新保留 3 名
- ② 薬物療法指導薬剤師・新規認定 3 名、更新認定 8 名、更新保留 1 名

- ③ 薬物療法専門薬剤師研修施設・新規認定 21 施設、更新認定 125 施設
- 2) 薬物療法専門薬剤師認定制度規程・同細則の改正
薬物療法専門薬剤師認定制度規程・同細則の改正を議論し、暫定措置期間を 2020 年度まで延長すること及び同専門薬剤師・指導薬剤師の更新保留期間を最大 3 年間とする改正を図った。
- 3) 薬物療法専門薬剤師・同指導薬剤師の英語名称
薬物療法専門薬剤師、同指導薬剤師の英語名称を整備した。
- 4) 認定試験に合格し、書面審査で不合格となった者の取扱いを協議し、本制度の暫定措置の期間内における認定試験合格の有効性を認めることとした。
- 5) 小委員会の活動
薬物療法専門薬剤師研修小委員会が主体となって、次の活動を実施した。
- ① 薬物療法専門薬剤師集中講義を 2 回開催した。
東京都 平成 29 年 6 月 10 日、11 日
金沢市 平成 29 年 10 月 8 日、9 日
- ② 他学会・団体が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。

(11) 専門薬剤師育成委員会

薬物療法専門薬剤師制度の今後の方向性と発展性について検討した。

- ① 大学教員及び保険薬局薬剤師の各認定資格に係る検討 WG において、大学教員及び保険薬局薬剤師の資質向上に繋がる認定制度のあり方を検討した。
- ② 第 27 回本学会年会の会場において「薬局におけるクリニカルクエストの見つけ方と学会発表・論文への繋げ方」と題するセミナーを開催した。
- ③ 「薬局・病薬剤師向けの臨床・疫学研究入門講座 -クリニカルクエストの立て方と計画の立案-」（平成 30 年 2 月 18 日開催）の開催を企画した。

(12) 功績賞選考委員会

平成 29 年度の功績賞受賞者 2 名を選考した。

<功績賞>

- ・ 井関 健 （北海道大学大学院薬学研究院 医療薬学部門医療薬学分野）
- ・ 松原 和夫（京都大学医学部附属病院 薬剤部）

(13) 学術貢献賞・奨励賞等選考委員会

平成 29 年度の奨励賞受賞者 1 名及び Postdoctoral Award 受賞者を 6 名選考した

<奨励賞>

- ・ 河添 仁 （愛媛大学医学部附属病院 薬剤部）
研究題目 外来化学療法における薬学的介入と双方向性の情報共有の臨床的アウトカム

<Postdoctoral Award>

- ・ 石田 卓矢（浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部）
学位論文題目 がん性疼痛患者における CYP3A5 遺伝子型および性差に基づく血中フェンタニル濃度と 4β-水酸化コレステロール濃度との関係

- ・ 植田 貴史 (兵庫医科大学病院 感染制御部)
学位論文題目 Enhanced loading regimen of teicoplanin is necessary to achieve therapeutic pharmacokinetics levels for the improvement of clinical outcomes in patients with renal dysfunction.
- ・ 岡田 直人 (徳島大学病院 薬剤部)
学位論文題目 薬剤関連副作用の発現予測因子の同定と副作用予防法構築への応用に関する研究
- ・ 加納 大輔 (国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 薬剤部)
学位論文題目 放射標識を用いた診断用薬の開発と臨床への応用
- ・ 竹内 一平 (桶狭間病院 藤田こころケアセンター)
学位論文題目 治療抵抗性統合失調症患者のリハビリを目標としたクロザピンの使用における副作用対策に関する研究
- ・ 地寄 悠吾 (京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター)
学位論文題目 数理モデルを用いたがん化学療法における医薬品評価に関する研究

(14) 論文賞選考委員会

平成 29 年度の論文賞 3 編を選考した。

<論文賞>

- ・ 論文題目 STOPP Criteria を用いた高齢者のポリファーマシーに対する薬剤師による介入
著者 小倉史愛、木村文司、宇田篤史、戸田飛鳥、赤澤由子、山本和宏、五百蔵武士、西岡達也、久米 学、槇本博雄、平井みどり
(医療薬学 Vol. 42, #2, 78-86)
- ・ 論文題目 乾燥ろ紙を用いた母乳中の抗アレルギー薬 cetirizine・levocetirizine 測定系確立
著者 齊藤順平、八鍬奈穂、鈴木朋、中島研、村島温子、左合治彦、石川洋一
(医療薬学 Vol. 42, #10, 661-669)
- ・ 論文題目 国内自発報告データベースを用いたデフェラシロクスと他剤の併用による急性腎不全リスクのシグナル検出とケースコントロール研究による評価
著者 水野貴仁、梅村拓巳、酒井隆全、深津昌弘、山田哲也、梶口智弘、辺公一、大津史子、後藤伸之、鷹見繁宏
(医療薬学 Vol. 42, #11, 717-726)

(15) 医療薬学教育委員会

1) 第 1 回医療薬学教育セミナーを開催した。

- ・ テーマ： 臨床研究成果を論文にするために
- ・ 日程： 平成 29 年 4 月 16 日 (日) 10 時～16 時
- ・ 会場： 明治大学駿河台キャンパス リバティホール
- ・ 参加者： 364 名 (一般 345 名、学生 19 名)

2) 今後のセミナーの開催計画

第2回医療薬学教育セミナー

- ・テーマ：臨床研究成果を論文にするために
- ・日程：平成30年4月22日（日） 10時～16時
- ・会場：日本薬学会長井記念館地下2階ホール

(16) 国際交流委員会

1) 国際シンポジウムの開催

第27回日本医療薬学会年会において、国際シンポジウムを開催した。

- ・テーマ：Expanding the pharmacist's roles in both the finance and delivery of health care services
- ・日程：平成29年11月3日（祝・金） 13時30分～17時45分（2部構成）
- ・概要：第1部 中国、韓国、シンガポール及び日本からの4名が講師
第2部 日本人6名による英語でのセッション
- ・参加者：150名以上（1部、2部を通して）

また、International poster presentation も行った。

2) ホームページ「英語版」作成への協力

広報委員会が主体となっている英語版ホームページの作成に、本委員会も英文校正等に協力した。

3) 新たな海外研修制度の検討

新たな海外研修のあり方について、対象者を医療薬学会会員に広げ、海外施設での研修や見学、海外で開催される学会等での発表への助成金の交付を検討した。

(17) 医療薬学学術委員会

1) 医療薬学学術小委員会の新規募集・採択

① 医療薬学学術小委員の研究テーマの公募要綱及び医療薬学学術委員会及び小委員会運営規程を策定し公募した。

② 医療薬学学術小委員会の研究テーマを2件採択した。

（平成30年4月1日より、学術第二及び第三小委員会として発足予定）

・医療薬学学術第二小委員会

研究代表者 寺田 智祐（滋賀医科大学医学部附属病院・薬剤部）

研究テーマ 薬学的視点に基づいたプレジジョン・メディシンの国内基盤構築のための調査研究

・医療薬学学術第三小委員会

研究代表者 宮崎 雅之（名古屋大学医学部附属病院・薬剤部）

研究テーマ がん領域における薬剤師による臨床研究支援プラットフォーム構築

2) 小委員会の活動

医療薬学学術第一小委員会の活動

① 臨床における薬物相互作用マネジメントのための手引きの作成を目的に、本学会ホームページ上でアンケートを実施した。

② 第27回年会においてシンポジウム「医療薬学会学術委員会の発足と第一小委員会の活動について～医療現場における薬物相互作用への関わり方～」を開催した。

- ③ 手引きを会員への周知・還元するために、各委員が合同で総説を執筆し、本学会誌「医療薬学」へ投稿することとした。

(18) 出版委員会

「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」(南江堂)シリーズの改訂を、2018年3月刊行を目指して編集を進めた。

1) 編集スケジュール

2017年 4月 各巻原稿締切 (原稿依頼は2016年12月)
2017年 5～7月 編集者に査読原稿送付
2017年 6～8月 執筆者へ原稿修正依頼
2017年 11～12月 各執筆者・編集者に初校送付
2018年 3月 刊行予定

2) 各巻の内容及び担当編集者

I巻 悪性腫瘍 (渡部一宏, 寺田智祐, 三浦昌朋)
II巻 精神・脳神経疾患/消化器疾患 (野田幸裕, 峯村純子)
III巻 心臓・血管系疾患/腎疾患/泌尿・生殖器疾患 (栗原健, 木村健)
IV巻 免疫疾患/骨・関節疾患/血液・造血器疾患/内分泌・代謝疾患
(菅原満, 石井伊都子)
V巻 感染症/呼吸器疾患/皮膚疾患/感覚器疾患 (北原隆志, 大谷道輝)

(19) 利益相反マネジメント委員会

一般社団法人日本医療薬学会利益相反マネジメント規定に基づき、平成28年1月から12月までの期間について、全ての理事、監事、年会長、次期年会長、次々期年会長、公開シンポジウム実行委員長、各小委員会委員長および事務局長に自己申告書の提出を求めて確認した。

(20) 人事委員会

平成29年10月に事務局の非常勤職員として1名を採用した。さらなる事務局体制の強化に務める。

7. 年会 (第27回日本医療薬学会年会)

『医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成～医療人としてより輝くために～』

開催日 平成29年11月3日(金・祝)～5日(日)

会場 幕張メッセほか

(1) 事業内容

会頭講演	1題
特別講演	6題
教育講演	1題
日本医療薬学会 学術貢献賞受賞講演	該当者なし
日本医療薬学会 奨励賞受賞講演	1題
日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演	6題
特別企画シンポジウム	3セッション

薬学教育特別セッション	1 セッション
International Symposium (国際シンポジウム)	1 セッション
シンポジウム (公募)	54 セッション
市民公開講座	1 セッション
一般演題	1,694 題
i) 口頭	315 題 (うち優秀演題候補 50 題)
ii) ポスター	1,379 題
International Poster	19 題
平成 29 年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会/学術フォーラム	
共催セミナー	31 セッション
日本薬科機器協会ワークショップ	
◆ 一般参加者数	9,229 名
◆ 懇親会	343 名 (招待者除く)

(2) 事業報告

第 27 回日本医療薬学会年會を、平成 29 年 11 月 3 日 (金・祝)～5 日 (日) の 3 日間、幕張メッセ、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張、ホテルニューオータニ幕張 (千葉市美浜区) において開催した。参加者は国内外から招待者を含め 9,360 名と、ここ何年か 9,000 名を超えての参加者となった。

本年會のメインテーマは「医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成～医療人としてより輝くために～」とした。組織委員長は信州大学医学部附属病院薬剤部の山折准教授が務め、青山隆夫、石井伊都子、望月眞弓の 3 名の副組織委員長と共に會の運営にあたった。本年會では、医療薬学分野の著しい変動が近年認められることから、本會のこれからの医療薬学という薬剤師による学問の更なる深化・醸成を目指すため、佐々木均會頭に“医療薬学の発展に向けて”という題目で會頭講演をお願いした。

特別講演はメインテーマに沿った内容と現在の実務課題の解決へと導くために示唆を与えていただける内容で 6 題構成した。信州大学医学部の福嶋義光先生には、これから益々薬剤師が医療従事者、臨床研究者として前面で活躍することが当然の状況となってくることから、あらためて倫理について考えていただきたく「医療倫理と研究倫理」と題して臨床現場で考えなければならない医療倫理と臨床研究について丁寧に講演していただいた。慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之先生には「iPS 細胞技術の神経系の再生医療および疾患研究への応用」の演題で、先端医療に関する話題として、ALS、アルツハイマー病、パーキンソン病を中心に病態解析と創薬研究についてご講演いただいた。がんの個別化医療・治療に向けての特別講演として、北海道がんセンターの西原広史先生に、「網羅的がん遺伝子検査による、がんプレジジョンメディシンの実践」の演題で網羅的がん遺伝子解析システムの現状と解析結果をもとにしての、がんプレジジョンメディシンの現状と問題点について、北海道大学の臨床例を加えて報告いただいた。教育講演では、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の矢作 尚久先生に「次世代医療 ICT 基盤技術の臨床応用- 次世代の社会基盤技術としての展開 -」と題しご講演いただいた。その他、厚生労働省医政局の野坂佳伸先生による「特定機能病院における医療安全管理体制の見直しについて」、千葉大学医学部附属病院院長の山本修一先生による「未来志向の大学病院運営」、愛知医科大学医学部地域医療教育学寄附講座・医学教育センターの宮田靖志先生による

「患者中心のポリファーマシー対策～意思決定の共有と価値観に基づく医療の実践～」といった内容で各先生方にご講演いただいた。

特別企画シンポジウムは、質の高い薬剤師の育成を目指し、これからの薬剤師指導・教育とその人材教育のための組織作りについて議論していただく「次世代を担う臨床薬剤師の育成と組織作り」（オーガナイザー：橋田亨、吉村知哲）、指導者育成を目指した「病院薬剤師がマネジメント能力とリーダーシップを発揮するために」（オーガナイザー：石井伊都子、寺田智祐）、人工知能が変えていくであろう薬剤師の業務、臨床現場とどう向き合っていくべきかを「人工知能（AI）が変える医療と創薬の未来」（オーガナイザー：下堂園権洋、山折大）と3題企画して討論していただく機会を設けた。

公募シンポジウムは昨年同様80件を超える応募企画が寄せられ、それらの中から54題を採択した。特に益々進歩し多様化していく薬剤師業務に関する企画が多かった。それら各シンポジウムでは多くの有意義な講演と討論が展開され、薬剤師のこれまでの成果を基盤として、これからさらに求められるであろう薬物療法の適性化に対するあり方、医療人としての取り組み方などについて議論された。年会で討論したことがらが職場に戻り業務向上、学術的レベルアップに繋がれば幸いである。本年の国際シンポジウムは、日本、中国、韓国、シンガポールから演者を招待しての従来のスタイルのシンポジウムと、日本人のみによる英語による講演からなるセッションの2部構成での企画とした。テーマは共に「Expanding the pharmacist's roles in both the finance and delivery of health care services」と共通として、時間も半日とこれまでの約2倍を確保した。初めての試みであったが、共に約100名程の参加があり、武田泰生、折井孝男両オーガナイザーのそつのない進行もあり、期待した以上の盛会なものとなった。一般演題は口頭発表が315題、ポスター発表が1,379題、International posterが19題と計1,713題もの発表がなされた。優秀演題に関して口演の各部門から10題を表彰させていただいた。市民公開講座は国際武道大学体育学部の山本利春先生による「健康作りのためのストレッチングの効用～疲れや痛みを予防・解消するために～」と題するものであり、実技も加えての楽しい公開講座となった。

各会場共いづれも盛況で会場の入場者を考慮した中継会場を3会場用意したこともあったか、多くの会場では席を確保出来ていたが、幾つかの会場では席が足りずご不便をおかけしたことも否めず、その点が反省点として上げられる。その他、Wi-Fi環境でご迷惑をおかけした部分、託児所の問題などが挙げられるが、これらについては年会の在り方委員会にての議論を期待し来年以降のより速やかな会の運営に繋がっていただければ幸いである。

8. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第65回医療薬学公開シンポジウム

- ・テーマ 地域包括ケア時代の病診薬連携
- ・開催日 平成29年9月3日（日）
- ・会場 大雪クリスタルホール大会議室
シンポジウム

座長：市立旭川病院 薬剤科長 粟屋敏雄

旭川医療センター 薬剤部長 美濃興三

「地域包括ケアシステムの構築と薬剤師の役割」

北海道保険福祉部地域医療推進局 野口栄輝
「健康情報発信および地域のニーズに応える健康サポート薬局の取り組み」
一般社団法人北海道薬剤師会 山田武志
「大学病院と保険薬局との連携事例」
旭川医科大学病院 小野尚志
「継続した薬物治療管理に向けた CKD 病診薬連携の構築
ーお薬手帳へ「CKD シール」貼付による腎機能情報の共有ー」
函館五稜郭病院 矢羽羽雅行
「ポリファーマシーで見落としがちな視点とこれからの地域連携」
北海道ファーマライズひまわり薬局 佐藤一生

特別講演

座長：旭川医科大学病院 教授・薬剤部長 田崎嘉一
「薬剤師外来を起点とする病院薬局連携」
名古屋大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 山田清文

◆参加人数 171 名

(2) 第 66 回医療薬学公開シンポジウム

- ・テーマ 再考～医療安全と薬剤師の役割
- ・開催日 平成 29 年 9 月 9 日（土）
- ・会場 米子コンベンションセンター 小ホール

シンポジウム 「Patient Safety ー 薬剤師に求められる視点」

座長：鳥取大学医学部附属病院 副薬剤部長 椎木芳和

山陰労災病院 薬剤部長 中西志子

「病棟薬剤師がどのように医薬品リスク管理計画を活用するか？」

山口大学医学部附属病院 准教授 幸田恭治

「チーム医療を守る病院薬剤部の役割」

鳥取赤十字病院 薬剤部長 國森公明

「当院の医療安全への取り組み～内服薬インシデント対策 WG から

医薬品安全管理専門委員会へ～」

鳥取大学医学部附属病院 副薬剤部長 椎木芳和

「医療安全と付度 薬局薬剤師は何をしているのか」

鳥取県薬剤師会 学術・薬学教育担当理事、ケイ・アイ堂薬局 氏原浩善

特別講演

座長：鳥取大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 島田美樹

「医薬品安全管理は第 2 ステップへ ～今後求められる新たな視点～」

医療法人社団愛友会上尾中央総合病院 情報管理部 渡邊幸子

◆参加人数 94 名

(3) 第 67 回医療薬学公開シンポジウム

- ・テーマ 専門薬剤師のアウトカム(検証、業務への活用・繋げ方)ー腎機能を中心にー
- ・開催日 平成 29 年 11 月 18 日（土）
- ・会場 ほしぞら公民館

シンポジウム

座長：琉球大学医学部附属病院 薬剤部 外間惟夫

「腎臓病薬物療法専門薬剤師 CKD」

社会医療法人 友愛会豊見城中央病院 大城匡史

「腎臓病薬物療法専門薬剤師 移植」

社会医療法人友愛会豊見城中央病院 大城瑠奈

「感染制御専門薬剤師・インфекションコントロールドクター」

琉球大学医学部附属病院 薬剤部 潮平英郎

特別講演

座長：琉球大学医学部附属病院 薬剤部 中村克徳

特別講演 1

「腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師の立ち上げと業務への活用の期待」

熊本大学薬学部 臨床薬理学分野 平田純生

特別講演 2

「専門薬剤師のアウトカムと展望」

名古屋市立大学病院 薬剤部 木村和哲

◆参加人数 67名

(4) 第68回医療薬学公開シンポジウム

- ・テーマ 医療情報のIT化と地域医療連携の推進
- ・開催日 平成29年11月19日(日)
- ・会場 高知大学医学部 臨床講義棟第三講義室

シンポジウム

座長：高知大学医学部附属病院 試験研究室長 八木祐助

「地域医療連携における病院薬剤師の役割」

高知大学医学部附属病院 薬品情報室長 岡崎雅史

「保険薬局が必要な医薬情報とIT化について」

高知県薬剤師会 香長土支部長 稲本悠

「高知県における医療情報ICTの現状と課題」

高知県健康政策部 医療政策課課長補佐 松岡哲也

基調講演 I

座長：高知大学医学部附属病院 副薬剤部長 森田靖代

『医療情報共有のための法的知識』

中外合同法律事務所 赤羽根秀宜

基調講演 II

『IT通信を用いた介護予防の小経験』

高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部准教授 石田健司

特別講演

座長：高知大学医学部附属病院 薬剤部長・教授 宮村充彦

『地域医療連携に関わる取り組み』

～香川県におけるK-MIXの開発・運用を中心として～』

香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 原量宏

◆参加人数 66名

9. がん専門薬剤師集中教育講座

(1) 東京

- ・開催日 平成29年2月11日～12日
- ・会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 藤原洋記念ホール

第1日 平成29年2月11日(土)

「肝臓・胆嚢・膵臓がんの薬物療法」 四国がんセンター 臨床研究センター長 石井浩
「抗がん薬の臨床薬理」 滋賀医科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 寺田智祐
「胃がんの薬物療法」 がん研究会有明病院 消化器内科部長 山口研成
「がん薬物療法の臨床試験」 慶應義塾大学医学部 臨床薬剤学教室講師 今村知世
「泌尿器がんの薬物療法」

国立がん研究センター中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科病棟医長 松井喜之
「肺がんの薬物療法」 和歌山県立医科大学医学部 内科学第三講座教授 山本信之
「悪性リンパ腫の薬物療法」 静岡がんセンター 血液・幹細胞移植科部長 池田宇次
「がんの発生、転移、薬剤耐性」 がん研究会がん化学療法センター 所長 藤田直也

第2日 平成29年2月12日(日)

「婦人科領域がんの薬物療法」 慶應義塾大学医学部 婦人科教授 青木大輔
「大腸がんの薬物療法」 神戸大学大学院医学研究科 食道胃腸外科教授 掛地吉弘
「乳がんの薬物療法」 国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科医長 向井博文
「支持療法」 がん研有明病院 薬剤部副薬剤部長 鈴木賢一
「白血病、造血幹細胞移植」

北海道大学大学院医学研究科 内科学講座血液内科学分野教授 豊嶋崇徳
「緩和医療とがん疼痛治療」 埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部主任 佐野元彦
「安全な化学療法の実践」 埼玉県立がんセンター 薬剤部副技師長 中山季昭

◆参加人数 438名

(2) 東京

- ・開催日 平成29年4月15日～16日
- ・会場 帝京平成大学沖永記念ホール

第1日 平成29年4月15日(土)

「泌尿器がんの薬物療法」

国立がん研究センター中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科病棟医長 松井喜之
「抗がん剤の臨床薬理」 滋賀医科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 寺田智祐
「肺がんの薬物療法」 がん研有明病院 呼吸器内科医長 西尾誠人
「がんの発生、転移、薬剤耐性」 近畿大学医学部 ゲノム生物学教室教授 西尾和人
「悪性リンパ腫の薬物療法」 金沢大学附属病院 血液内科講師 山崎宏人
「白血病、造血幹細胞移植」

国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科科長 福田隆浩
「婦人科領域がんの薬物療法」

国立がん研究センター東病院 先端医療科・乳腺科腫瘍内科医員 原野謙一
「緩和医療とがん疼痛治療」 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長 高瀬久光

第2日 平成29年4月16日(日)

「がん薬物療法の臨床試験」 国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門
研究企画推進部安全管理室長 米村雅人

「支持療法」 九州医療センター 薬剤部副薬剤部長 林稔展

「頭頸部がんの薬物療法」 宮城県立がんセンター 頭頸部内科科長 山崎知子

「安全な化学療法の実践」

神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部副部長代行 池末裕明

「大腸がんの薬物療法」 静岡県立静岡がんセンター 消化器内科医長 山崎健太郎

「乳がんの薬物療法」 国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科医長 向井博文

「胃がんの薬物療法」 愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部長 室圭

◆参加人数 642名

(3) 京都

・開催日 平成29年7月22日～23日

・会場 京都大学百周年記念ホール

第1日 平成29年7月22日(土)

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 がん・感染症センター都立駒込病院

臨床検査科臨床研究支援室医長・室長 小泉史明

「小児がんの薬物療法」 京都大学大学院医学研究科 発達小児科学講師 平松英文

「白血病、造血幹細胞移植」

京都大学大学院医学研究科 血液腫瘍内科学 特定病院助教 諫田淳也

「抗がん剤の臨床薬理」 慶應義塾大学医学部 臨床薬剤学教室専任講師 今村知世

「悪性リンパ腫の薬物療法」

京都大学大学院医学研究科 血液腫瘍内科学助教 菱澤方勝

「胃がんの薬物療法」 京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学特定助教 松原淳一

「緩和医療とがん疼痛治療」 聖隷浜松病院 薬剤部長 塩川満

「支持療法」 日本医科大学附属病院 副薬剤部長 伊勢雄也

第2日 平成29年7月23日(日)

「乳がんの薬物療法」 国際医療福祉大学医学部 臨床腫瘍科教授 石黒洋

「肺がんの薬物療法」 京都大学大学院医学研究科 呼吸器内科学助教 金永学

「泌尿器がんの薬物療法」 慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室教授 大家基嗣

「がん薬物療法の臨床試験」 神戸大学大学院医学研究科 腫瘍・血液内科教授 南博信

「大腸がんの薬物療法」 国立がん研究センター中央病院 消化管内科病棟医長 濱口哲弥

「婦人科領域がんの薬物療法」 京都大学医学部附属病院 産婦人科助教 安彦郁

「安全な化学療法の実践」 京都大学医学部附属病院 薬剤部副薬剤部長 池見泰明

◆参加人数 457名

(4) 福岡

・開催日 平成29年12月2日～3日

・会場 九州大学医学部百年講堂大ホール

第1日 平成29年12月2日(土)

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 がん・感染症センター都立駒込病院

臨床検査科臨床研究支援室医長・室長 小泉史明

「乳がんの薬物療法」 九州大学病院 臨床・腫瘍外科講師 久保真

「大腸がんの薬物療法」

九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場英司

「悪性リンパ腫の薬物療法」

広島大学原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科研究分野教授 一戸辰夫

「肺がんの薬物療法」 静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科部長 高橋利明

「安全な化学療法の実践」 がん研究会有明病院 院長補佐・薬剤部長 濱敏弘

「緩和医療とがん疼痛治療」 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長 高瀬久光

「抗がん剤の臨床薬理」 慶應義塾大学医学部 臨床薬剤学教授 谷川原祐介

第2日 平成29年12月3日(日)

「支持療法」 九州医療センター 薬剤部副薬剤部長 林稔展

「皮膚がんの薬物療法」 九州大学大学院医学研究科 皮膚科学准教授 内博史

「がん化学療法の臨床試験」 慶應義塾大学医学部 臨床薬剤学専任講師 今村知世

「胃がんの薬物療法」 九州大学大学院 診療准教授 沖英次

「頭頸部がんの薬物療法」 九州医療センター 耳鼻咽喉科科長 中島寅彦

「泌尿器がんの薬物療法」

宮崎大学医学部 発達泌尿生殖医学講座泌尿器科学分野教授 賀本敏行

「婦人科領域がんの薬物療法」

九州大学大学院医学研究院 生殖病態生理学准教授 園田顕

◆参加人数 433名

10. がん専門薬剤師全体会議

第5回 がん専門薬剤師全体会議

・開催日 平成29年5月13日(土)

・会場 ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター

セッション1

「薬剤師による研究のススメ～日常業務から新しいエビデンスを求めて～」

座長：佐藤淳也(静岡県立静岡がんセンター)、藤田行代志(群馬県立がんセンター)

・石原正志(岐阜大学医学部附属病院)

・杉田一男(がん研究会 有明病院)

ランチョンセミナー(中外製薬株式会社 共催)

座長：松尾宏一(福岡大学 薬学部)

「ヘルスサイエンス研究の進め方：QOL 評価研究をとおして」

演者：宮崎貴久子(京都大学 非常勤講師)

セッション2

「一歩進んだ薬剤師業務～臨床業務のフロンティアを目指して～」

座長：三宅知宏(伊勢赤十字病院)、有馬純子(鹿児島大学病院)

・村上通康(松山赤十字病院)

・伊勢崎竜也(亀田総合病院)

・吉村知哲(大垣市民病院)

・鈴木大吾(春日井市民病院)

セッション3

「熱闘！ Pros and Cons ～会場参加型セッション～」

座長：中多陽子（大阪国際がんセンター）

池末裕明（神戸市立医療センター中央市民病院）

【オキサリプラチンによる末梢神経障害】

- ・本多伸二（京都市立病院）
- ・高橋克之（大阪市立大学附属病院）
- ・山本智也（大阪大学医学部附属病院）
- ・土手賢史（京都桂病院）
- ・野田哲史（滋賀医科大学医学部附属病院）
- ・眞下恵次（日本赤十字社和歌山医療センター）

【カルボプラチンの用量設定】

- ・中尾将彦（大阪市立総合医療センター）
- ・渡邊裕之（奈良県立医科大学附属病院）
- ・榎原克也（淀川キリスト教病院）
- ・和田敦（神戸低侵襲がん医療センター）

イブニングセミナー（大鵬薬品工業株式会社 共催）

座長：谷川原祐介（慶應義塾大学医学部）

「米国における薬学教育と臨床薬剤師の活躍」

演者：Dr. Marina Suzuki, PharmD, PhD, BCPS, BCACP (Pacific University)

◆参加者人数 342名

11. がん専門薬剤師アドバンスト研修会

第5回 がん専門薬剤師アドバンスト研修会

- ・開催日 平成29年11月19日（日）
- ・会場 九州大学病院 外来棟5階 会議室2

症例検討1「小細胞肺癌」

講師：秦晃二郎（九州大学病院 薬剤部）、米嶋康臣（九州大学病院 呼吸器科）

ランチョンセミナー（MSD株式会社・大鵬薬品工業株式会社 共催）

座長：齊藤嘉津彦（がん専門薬剤師研修小委員会 委員長）

「進行非小細胞肺癌に対する個別化治療の実際」

演者：岡本勇（九州大学病院 呼吸器科 診療准教授）

症例検討2「小腸がん」

講師：内山将伸（福岡大学筑紫病院 薬剤部）

佐藤栄一（福岡大学病院 腫瘍・血液・感染症内科）

講評 齊藤嘉津彦（がん専門薬剤師研修小委員会 委員長）

◆参加者人数 29名

12. 薬物療法専門薬剤師集中講義

(1) 東京

- ・開催日 平成29年6月10日～11日
- ・会場 日本薬学会 長井記念ホール

第1日 平成29年6月10日(土)

- 「排尿障害」 東京医科歯科大学 腎泌尿器外科学准教授 齋藤 一隆
- 「乾癬」 東京通信病院 副院長 兼 皮膚科部長 江藤隆史
- 「脂質異常症」 日本医科大学付属病院 病院講師 稲垣恭子
- 「慢性閉塞性肺疾患 (COPD)」 東京通信病院 呼吸器内科部長 大石展也
- 「頭痛・片頭痛」 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野講師 白田和弘
- 「感染症」 長崎大学病院 薬剤部准教授・副薬剤部長 北原隆志

第2日 平成29年6月11日(日)

- 「膵炎」 日本医科大学付属病院 消化器外科講師 松下晃
- 「てんかん」 東京通信病院 神経内科医師 関大成
- 「酸・塩基平衡異常・電解質異常」
東京医科歯科大学医学部附属病院 血液浄化療法部准教授 岡戸丈和
- 「肺高血圧症」
千葉大学大学院医学研究院 先端肺高血圧症医療学寄附講座特任教授 田邊信宏
- 「糖尿病」 千葉大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科診療講師 石川耕
- 「がん化学療法の支持療法」 国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門
研究企画推進部 安全管理室 室長 米村雅人

◆参加者数 196名

(2) 金沢

- ・開催日 平成29年10月7日～8日
- ・会場 金沢商工会議所会館1階 ホール

第1日 平成29年10月7日(土)

- 「薬物動態の基本を臨床で活かす」
金沢大学附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 崔吉道
- 「緑内障薬物治療～成功への鍵～」
金沢大学医薬保健研究域医学系 眼科学教授 杉山和久
- 「肝炎、肝硬変」 黒部市民病院内科 消化器内科部長 辻宏和
- 「慢性閉塞性肺疾患 (COPD)」 金沢医科大学 呼吸器内科学助教 中川研
- 「貧血」 金沢大学附属病院 輸血部准教授・輸血部長 山崎宏人
- 「不整脈」 金沢大学医薬保健研究域保健学系 病態検査学講座准教授 古荘浩司

第2日 平成29年10月8日(日)

- 「骨粗しょう症治療薬の予習と復習」
金沢大学大学院先進運動器医療創成講座特任教授 山本憲男
- 「子宮内膜症の薬物治療」 金沢医科大学 産科婦人科学講師 高木弘明
- 「脂質代謝異常症」
金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 保健学専攻病態検査学講座教授 稲津明広
- 「新しい肺炎診療ガイドラインについて」 富山大学 感染予防医学講座教授 山本善裕
- 「認知症」 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
脳老化・神経病態学(神経内科学) 教授 山田正仁
- 「乾癬」 金沢医科大学 皮膚科学講座准教授 西部明子

◆参加者数 121名

13. 関係団体への協力（本学会役員）

- 1) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 理事：安原真人 社員：本学会
- 2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録
統括責任者：佐々木会頭
- 3) 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
「薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究」
研究代表者：安原真人

〔2〕 組織運営の部

1. 平成 29、30 年度 代議員の選出

平成 28 年 10 月から 11 月にかけて実施した代議員選挙において 250 名が当選した。平成 29 年 3 月 24 日に開催した第 9 回定時社員総会において、推薦代議員候補者 25 名の就任決議を行い、同総会の終結時より 275 名の代議員が就任した。

2. 平成 30、31 年度 役員を選出

平成 29 年 10 月に投票を実施した役員候補者選挙において 14 名の理事候補者と 3 名の監事候補者が当選した。平成 30 年 3 月 25 日の第 10 回定時社員総会において推薦理事候補を加えた新役員 23 名（理事 20 名、監事 3 名）の選任決議が行われる。審議の結果、就任が了承された際には、同総会の終結時から任期 2 年として役員に就任することになる。

事業報告附属明細書

(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

1. 役員 (平成 28 年 3 月 26 日第 8 回定時社員総会終了後から就任)

会頭

佐々木 均 長崎大学病院

副会頭

井関 健 北海道大学大学院薬学研究院

奥田 真弘 三重大学医学部附属病院

山田 安彦 東京薬科大学薬学部

理事

青山 隆夫 東京理科大学薬学部

出石 啓治 いずし薬局

伊藤 清美 武蔵野大学薬学部

大谷 壽一 慶應義塾大学薬学部

川上 純一 浜松医科大学医学部附属病院

崔 吉道 金沢大学附属病院

佐藤 淳子 医薬品医療機器総合機構

千堂 年昭 岡山大学病院

武田 泰生 鹿児島大学病院

濱 敏弘 がん研究会有明病院

松原 和夫 京都大学医学部附属病院

峯村 純子 昭和大学横浜市北部病院

宮崎 長一郎 有限会社宮崎薬局

望月 眞弓 慶應義塾大学病院

山田 清文 名古屋大学医学部附属病院

脇山 尚樹 第一三共プロファーマ株式会社

監事

大石 了三

安原 真人 帝京大学薬学部

山元 俊憲 公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団

2. 事務局 (平成 29 年 12 月 31 日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 12-15 日本薬学会長井記念館 7 階

事務局長 1 名、非常勤職員 2 名

平成 29 年度 決算報告 (案)

自 平成 29 年 1 月 1 日
至 平成 29 年 12 月 31 日

貸借対照表

平成29年12月31日現在

一般社団法人日本医療薬学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	193,885,431	191,035,284	2,850,147
未収金	7,561,348	7,616,812	△ 55,464
前払金	1,220,263	1,371,688	△ 151,425
仮払金	-	500,000	△ 500,000
流動資産合計	202,667,042	200,523,784	2,143,258
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
がん専門薬剤師海外研修引当資産	-	411,483	△ 411,483
財政安定引当資産	150,000,000	100,000,000	50,000,000
特定資産合計	150,000,000	100,411,483	49,588,517
(3) その他固定資産			
器具備品	614,325	905,220	△ 290,895
建物附属設備	4,748,468	4,855,778	△ 107,310
ソフトウェア	152,950	260,050	△ 107,100
電話加入権	74,984	74,984	-
差入敷金	8,018,910	8,018,910	-
差入保証金	-	1,452,384	△ 1,452,384
その他固定資産合計	13,609,637	15,567,326	△ 1,957,689
固定資産合計	163,609,637	115,978,809	47,630,828
資産合計	366,276,679	316,502,593	49,774,086
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	10,256,499	11,850,344	△ 1,593,845
預り金	632,642	777,983	△ 145,341
前受金	25,786,400	22,733,500	3,052,900
流動負債合計	36,675,541	35,361,827	1,313,714
2. 固定負債			
退職給付引当金	730,000	-	730,000
固定負債合計	730,000	-	730,000
負債合計	37,405,541	35,361,827	2,043,714
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	-	411,417	△ 411,417
2. 一般正味財産	328,871,138	280,729,349	48,141,789
正味財産合計	328,871,138	281,140,766	47,730,372
負債及び正味財産合計	366,276,679	316,502,593	49,774,086

正味財産増減計算書
平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	115,802,500	111,592,500	4,210,000
正会員受取会費	114,866,500	109,961,500	4,885,000
学生会員受取会費	396,000	991,000	△ 595,000
賛助会員受取会費	540,000	620,000	△ 80,000
事業収益	149,157,072	154,495,714	△ 5,338,642
受取参加料	126,013,100	132,125,400	△ 6,112,300
受取審査認定指定料	14,812,200	12,776,400	2,035,800
受取受託料	4,000,000	4,000,000	-
受取投稿掲載料	4,331,772	5,593,914	△ 1,262,142
受取補助金等	800,197	892,780	△ 92,583
受取民間補助金	7,957	192,780	△ 184,823
受取民間助成金	672,240	700,000	△ 27,760
受取地方団体補助金	120,000	-	120,000
受取負担金	49,568,852	42,368,200	7,200,652
受取負担金	49,568,852	42,368,200	7,200,652
受取寄付金	10,351,417	7,500,000	2,851,417
受取寄付金	9,940,000	7,500,000	2,440,000
受取寄付金振替	411,417	-	411,417
雑収益	9,482,461	8,848,220	634,241
受取利息	8,659	59,992	△ 51,333
受取広告料	6,670,800	5,739,680	931,120
雑収益	2,803,002	3,048,548	△ 245,546
経常収益計	335,162,499	325,697,414	9,465,085
(2) 経常費用			
事業費	262,469,903	254,909,630	7,560,273
給料手当	13,678,140	13,002,038	676,102
退職給付金	557,720	-	557,720
福利厚生費	72,488	46,158	26,310
法定福利費	2,153,161	2,238,967	△ 85,806
会議費	8,436,710	7,632,175	804,535
旅費交通費	19,550,712	21,239,517	△ 1,688,805
通信運搬費	13,325,893	12,101,798	1,224,095
消耗什器備品費	15,933,316	12,295,994	3,637,322
消耗品費	4,419,631	5,853,879	△ 1,434,248
印刷製本費	36,467,812	37,244,925	△ 777,113
図書購入費	903	23,760	△ 22,857
減価償却費	376,958	482,282	△ 105,324
賃借料	85,157,723	84,327,494	830,229
諸謝金	9,013,274	10,959,207	△ 1,945,933
光熱水料費	529,268	498,009	31,259
渉外費	15,280	-	15,280
委託費	43,449,055	37,335,033	6,114,022
支払広告料	162,000	464,400	△ 302,400
支払手数料	6,432,904	6,944,726	△ 511,822
雑費	2,736,975	2,219,268	517,707
管理費	24,550,807	25,484,194	△ 933,387
給料手当	4,225,184	4,016,336	208,848
退職給付金	172,280	-	172,280
福利厚生費	22,386	14,258	8,128
法定福利費	665,112	691,618	△ 26,506
会議費	144,485	148,951	△ 4,466
旅費交通費	4,515,702	4,687,180	△ 171,478
通信運搬費	300,089	366,391	△ 66,302
消耗什器備品費	576,442	334,701	241,741
消耗品費	113,704	124,200	△ 10,496
印刷製本費	157,034	175,313	△ 18,279
図書購入費	279	-	279
租税公課	4,517,976	6,547,245	△ 2,029,269
減価償却費	128,347	164,208	△ 35,861
賃借料	3,817,559	3,845,659	△ 28,100
保険料	217,000	-	217,000
光熱水料費	180,206	169,563	10,643
渉外費	4,720	174,200	△ 169,480
他団体年会費	468,040	368,040	100,000
支払寄付金	50,000	50,000	-
委託費	1,908,820	2,456,225	△ 547,405
支払手数料	2,228,633	1,124,796	1,103,837
雑費	136,809	25,310	111,499
経常費用計	287,020,710	280,393,824	6,626,886

正味財産増減計算書
平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
評価損益等調整前当期経常増減	48,141,789	45,303,590	2,838,199
当期経常増減額	48,141,789	45,303,590	2,838,199
2. 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	48,141,789	45,303,590	2,838,199
一般正味財産期首残高	280,729,349	235,425,759	45,303,590
一般正味財産期末残高	328,871,138	280,729,349	48,141,789
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 411,417	-	△ 411,417
一般正味財産への振替額	△ 411,417	-	△ 411,417
当期指定正味財産増減額	△ 411,417	-	△ 411,417
指定正味財産期首残高	411,417	411,417	-
指定正味財産期末残高	-	411,417	△ 411,417
III 正味財産期末残高	328,871,138	281,140,766	47,730,372

財産目録

平成29年12月31日現在

一般社団法人日本医療薬学会

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	105,987
預金	普通預金		193,779,444
	みずほ銀行 渋谷中央支店		79,191,369
	みずほ銀行 渋谷中央支店		22,314,689
	みずほ銀行 渋谷中央支店		14,108,507
	ゆうちょ銀行 〇一九支店		38,391,885
	ゆうちょ銀行 〇一九支店		39,683,491
	三井住友銀行 渋谷駅前支店		44,913
	三菱東京UFJ銀行 渋谷支店		44,590
未収金			7,561,348
論文投稿料			3,240
論文掲載料			171,288
医療薬学広告料			241,920
正会員会費			826,500
学生会員会費			2,000
年会精算金			6,255,800
その他			60,600
前払金			1,220,263
賃料・共益費			1,208,720
その他			11,543
流動資産合計			202,667,042
(固定資産)			
特定資産			
財政安定引当資産			150,000,000
みずほ銀行 渋谷中央支店			50,000,000
三井住友銀行 渋谷駅前支店			50,000,000
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店			50,000,000
その他固定資産			
器具備品			614,325
建物附属設備			4,748,468
ソフトウェア			152,950
電話加入権			74,984
差入敷金			8,018,910
固定資産合計			163,609,637
資産合計			366,276,679
(流動負債)			
未払金			10,256,499
給与・手当			12,184
法定福利費			598,516
租税公課			2,572,000
通信運搬費			800,486
旅費交通費			2,895,970
日病薬単位申請料			3,240
その他			3,374,103
預り金			632,642
健康保険			228,196
厚生年金			361,241
雇用保険			43,205
前受金			25,786,400
正会員会費			20,938,000
学生会員会費			28,000
賛助会員会費			360,000
購読料			248,400
講座参加費 会員			3,088,800
講座参加費 日病薬会員			993,600
講座参加費 一般			129,600
流動負債合計			36,675,541
(固定負債)			
退職給付引当金			730,000
固定負債合計			730,000
負債合計			37,405,541
正味財産			328,871,138

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 適用している会計基準

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)を採用している。

ただし、公益認定前のため、正味財産増減計算書内訳表及び貸借対照表内訳表は作成しておらず、財産目録の表示に係る規定は適用していない。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

建物附属設備

定額法

什器備品

定率法

② 無形固定資産

定額法

(3) 引当金の計算基準

退職給付引当金

職員の退職金の支給に備えるため
期末要支給額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込経理を採用している

2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	5,365,500	617,032	4,748,468
什器備品	2,499,662	1,885,337	614,325
合計	7,865,162	2,502,369	5,362,793

附属明細書

平成 29 年度

1. 有形固定資産及び無形固定資産の明細

(単位:円)

資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額	減価償却累計額	期末取得価額
有形固定資産	器具備品	905,220	-	-	290,895	614,325	1,885,337
	建物附属設備	4,855,778	-	-	107,310	4,748,468	617,032
	計	5,760,998	-	-	398,205	5,362,793	2,502,369
無形固定資産	ソフトウェア	260,050	-	-	107,100	152,950	382,550
	電話加入権	74,984	-	-	-	74,984	74,984
	計	335,034	-	-	107,100	227,934	382,550

2. 引当金の明細

退職給付引当金

資産の種類	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	-	730,000	-	-	730,000

平成 29 年度 監査報告

自 平成 29 年 1 月 1 日
至 平成 29 年 12 月 31 日

平成 30 年 2 月 24 日

監査報告書

一般社団法人日本医療薬学会
会 頭 佐々木 均 殿

一般社団法人日本医療薬学会

監事 大石 了三 ㊟

監事 安原 真人 ㊟

監事 山元 俊憲 ㊟

私たち監事は、当法人の平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日までの平成 29 年度の業務及び財産の状況並びに理事の職務執行について監査を行いましたので、監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法

各監事は、理事会に出席し理事及び使用人等からその職務の執行について報告並びに説明を受けるとともに、重要な決裁書類等を閲覧し、当法人の事務所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 事業報告は、法令又は定款に従い法人の状況を正しく示していると認めます。
- 理事の職務の遂行に関して、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示していると認めます。

平成 30・31 年度 役員選任（案）

任 期 自 第 10 回定時社員総会の終結後
至 第 12 回定時社員総会の終結時

一般社団法人日本医療薬学会
平成 30、31 年度 役員選任名簿 (案)

(五十音順)

<理事 (20名)>

選挙・推薦	氏名	所属	所属区分
選挙	青山 隆夫	東京理科大学・薬学部	大学
選挙	出石 啓治	いずし薬局	保険薬局
選挙	井関 健	北海道大学大学院薬学研究院	大学
推薦	伊藤 清美	武蔵野大学・薬学部	大学
選挙	大谷 壽一	慶應義塾大学・薬学部	大学
選挙	奥田 真弘	三重大学医学部附属病院・薬剤部	病院
選挙	川上 純一	浜松医科大学医学部附属病院・薬剤部	病院
推薦	河原 昌美	金沢市立病院・薬剤室	病院
推薦	吉光寺 敏泰	MeijiSeika ファルマ株式会社・医薬研究本部	その他
選挙	崔 吉道	金沢大学附属病院・薬剤部	病院
推薦	佐藤 淳子	医薬品医療機器総合機構・国際協力体制整備準備室	その他
選挙	千堂 年昭	岡山大学病院・薬剤部	病院
選挙	武田 泰生	鹿児島大学病院・薬剤部	病院
推薦	寺田 智祐	滋賀医科大学医学部附属病院・薬剤部	病院
選挙	峯村 純子	昭和大学横浜市北部病院・薬剤部	病院
選挙	宮崎 長一郎	有限会社宮崎薬局	保険薬局
選挙	望月 眞弓	慶應義塾大学病院・薬剤部	病院
推薦	山田 清文	名古屋大学医学部附属病院・薬剤部	病院
選挙	山田 安彦	東京薬科大学・薬学部	大学
推薦	山本 康次郎	群馬大学医学部附属病院・薬剤部	病院

注1) 理事候補者選挙当選理事候補者：13名 (1名就任辞退)、 推薦理事候補者7名
所属区分別 病院：11名、 大学：5名、 保険薬局：2名、 その他：2名

<監事 (3名)>

選挙・推薦	氏名	所属
選挙	大森 栄	信州大学医学部附属病院・薬剤部
選挙	安原 眞人	帝京大学・薬学部
選挙	山元 俊憲	昭和大学医学・医療振興財団

注2) 監事候補者選挙当選理事候補者：3名